

MBC ラジオ『ココが聞きたい！ドクタートーク』2025.2.22
第 1138 回放送分『新型コロナウイルス感染症の総括』4 回目
ゲスト：西順一郎ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは、「新型コロナウイルス感染症の総括」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会 西順一郎（にし じゅんいちろう）ドクターです。西さん、最終週もよろしくお願いいたします。

西順一郎Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

今週は何についてお話しいただけますか？

西順一郎Dr.

今週は新型コロナのパンデミックを振り返ってみたいと思います。日本の対応を振り返ってみると、良かった点もありますが、弊害もありました。まず、2020年、2021年は、起源株からアルファ株、デルタ株と病原性の強い株が流行しました。

二見いすず

アルファ株やデルタ株、ありましたね。

西順一郎Dr.

この頃は欧米で感染が広がり、死亡者もたくさんみられました。そして2022年からオミクロン株になり、日本はここから本格的な流行が始まり、感染者数が一気に増えました。しかし世界と比べると、人口あたりの死亡率は比較的少なく、人口100万人あたりに対し、イギリスやアメリカは3000人を超える死者数ですが、日本はおよそ600人でした。

二見いすず

その理由はこういったものが考えられますか？

西順一郎Dr.

混乱はありましたが医療体制や保険制度が良かったという理由に加え、日本人はワクチンをよく打っていました。日本は世界で第二位の接種の多さだったんです。

二見いすず

改めて、ワクチンの重要性がよく分かりますね。

西順一郎Dr.

パンデミックは、発生のピークを遅らせることがとても大切です。
なぜならその間に、薬とワクチンを開発することができるからです。
薬とワクチンの開発までに流行を抑え込むことが、日本はある程度できていました。
以上が今回のパンデミックで良かった点です。

二見いすず

一方で、良くなかった点もあるということでしたね？

西順一郎Dr.

はい。まず、新型コロナが医療体制に影響を及ぼし、集中治療室が満室になって、
間接的に心血管系疾患など重要な疾患の診療に影響が出たということです。
また、経済が停滞した影響で20代自殺、特に女性の自殺が増えました。2020年からの3年間でコロナ前より自殺者が1,264人増加しており、
これは20代の新型コロナで亡くなる方の20倍にあたります。

二見いすず

それほどまでに多かったというのは知らなかったです。

西順一郎Dr.

そのほかにも、家族が感染者の臨終や火葬に立ち会えない、
身近なところでは、都道府県をまたいだ移動の制限や、
子どもたちへのマスク着用や給食の黙食など、
さまざまなことが、今後検証が必要だと考えます。
今回のパンデミックでよかった点は評価し、悪かった点は改めて、
次のパンデミックに備えることが大切です。

二見いすず

よく分かりました。
今月は、「新型コロナウイルス感染症の総括」をテーマに、
鹿児島県医師会 西順一郎ドクターに貴重なお話をさせていただきました。
西さん、ありがとうございました。

西順一郎Dr.

ありがとうございました。